

資料編

1. 滋賀県新しいエネルギー社会づくりを考える懇話会

(1) 委員名簿

【委員】

[敬称略、五十音順]

	氏名	団体・所属、役職等
	いはら ともひと 伊原 智人	Green Earth Institute株式会社 代表取締役
	えだひろ じゅんこ 枝廣 淳子	幸せ経済社会研究所 所長 東京都市大学環境学部 教授
	おおわだ じゅんこ 大和田 順子	一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表
	きつかわ たけお 橋川 武郎	東京理科大学大学院イノベーション研究科 教授
◎	つちや はるき 槌屋 治紀	株式会社システム技術研究所 所長 京都エコエネルギー学院 学院長
	やすだ まさし 安田 昌司	滋賀県立大学産学連携センター 教授
○	よこやま りゅういち 横山 隆一	早稲田大学 名誉教授

◎座長 ○副座長

【オブザーバー】

	関西電力株式会社
	大阪ガス株式会社
	近畿経済産業局

(2)審議経過

日時	議事内容	
平成27年8月4日	第1回	滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例について
平成27年11月20日	第2回	しがエネルギービジョン(素案)について ※第4回「しがスマートエネルギー推進会議」との合同会議
平成28年1月14日	第3回	しがエネルギービジョン(案)について ※第5回「しがスマートエネルギー推進会議」との合同会議

[参考] しがスマートエネルギー推進会議

構成団体	推薦企業・団体
滋賀県商工会議所連合会	八日市商工会議所
滋賀県商工会連合会	甲西陸運株式会社
滋賀県中小企業団体中央会	滋賀特機株式会社
滋賀経済同友会	
一般社団法人滋賀経済産業協会	いぶきグリーンエナジー株式会社
公益財団法人滋賀県産業支援プラザ	
関西電力株式会社	
大阪ガス株式会社	
公立大学法人滋賀県立大学	
株式会社滋賀銀行	
滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	
生活協同組合コープしが	
J A 滋賀中央会	
滋賀県土地改良事業団体連合会	
滋賀県林業協会	
近畿経済産業局	

2. 各種イベント等での周知・意見交換の実施状況

①各種団体への周知・意見交換

日時	内容(主催者)
平成27年6月18日	滋賀県電力利用合理化委員会セミナー(滋賀県電力利用合理化委員会)
平成27年7月14日	エネルギーシンポジウム(一般社団法人 滋賀経済産業協会)
平成27年7月27日	第2回滋賀経済団体連合会との連絡調整会議(滋賀県)
平成27年9月5日	地域資源・エネルギー コーディネーター育成プログラム/キックオフ・フォーラム 「私からはじめる! 地域資源を活かしたエネルギー創造と利活用」 (公立大学法人 滋賀県立大学)
平成27年9月11日	地域エネルギー研究会(NPO法人 環人ネット内)
平成27年10月21日	びわ湖環境ビジネスメッセ2015セミナー 「新しいエネルギー社会の実現に向けたイノベーション」(滋賀県)
平成27年10月22日	滋賀県環境産業創造会議幹事会(滋賀県)
平成27年10月23日	グリーン購入フォーラム2015in滋賀 ~地域からエネルギーの未来を創る~ (びわ湖環境ビジネスメッセ実行委員会・一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク)
平成27年10月31日	地域資源を活かしたエネルギーフォーラム(水源の里再エネ実行委員会)
平成27年11月9日	近畿バイオマス産業セミナーin滋賀(近畿経済産業局)
平成27年11月25日	第4回滋賀経済団体連合会との連絡調整会議(滋賀県)
平成27年11月25日	再生可能エネルギー技術革新セミナー(滋賀県工業技術総合センター)
平成27年12月11日	近江環人地域再生学座(滋賀県立大学 地域共生センター)
平成27年12月16日	第11回CO ₂ 削減シンポジウム(一般社団法人 滋賀経済産業協会)
平成28年1月18日	滋賀経済団体連合会との懇談会(滋賀県)
平成28年1月29日	第5回滋賀経済団体連合会との連絡調整会議(滋賀県)
平成28年2月13日	エネルギーシフト県民フォーラム「新しいエネルギー社会の実現に向けて」(滋賀県)
平成28年2月19日	滋賀経済産業協会環境委員会(一般社団法人 滋賀経済産業協会)
平成28年2月28日	地域資源・エネルギー コーディネーター育成プログラム/推進フォーラム 「私からはじめる! 地域資源を活かしたエネルギー創造と利活用」 (公立大学法人 滋賀県立大学)

②市町への周知・意見交換

日時	内容
平成27年8月28日	第15回県市町エネルギー研究会
平成27年11月26日	第16回県市町エネルギー研究会
平成28年1月28日	第17回県市町エネルギー研究会

③テレビ放映による周知・意見交換

日時	内容
平成27年10月10日	テレビ滋賀プラスワン「新しいエネルギー社会づくり」※びわ湖放送
平成27年10月12日	県政テレビ対話「三日月知事と考える ~エネルギーの未来~」※びわ湖放送

3. 用語解説

用語	解説
【ア行】	
イノベーション	本ビジョンでは、単に新しい技術や製品の開発を指すのではなく、サービスの創出を含め、それまでのモノや仕組みなどに対して、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を創造し、社会や暮らしによりよい変化をもたらすことを意味する。
エネルギーマネジメントシステム(EMS)	エネルギーの効率的な利用、いわゆる省エネを図るシステムのこと。住宅やビルで使用される機器や設備を ICT など一元化し、エネルギーの使用と管理を高効率に行う機器やシステムのことを指す。代表的なものに、住宅向けの HEMS、オフィスビル向けの BEMS、工場向けの FEMS などがある。
【カ行】	
関西広域小水力利用推進協議会	小水力の利用推進に関する調査研究を行うとともに、小水力の利用事業の円滑な普及発展を図り、持続可能な循環型地域社会の構築と環境保全に寄与することを目的に、住民、行政、企業、研究機関等が連携して、地域が自主的に行う小水力利用の推進を図る場として、平成 24 年(2012 年)9 月に設立された任意団体。
クラスター	クラスターとは、「房」の意であり、ぶどうの房のように様々なものが結びついていること。産業クラスターという場合には、特定の産業分野で、資材供給・生産・流通・販売等の関連企業や金融・教育・研究等の支援機関が地理的に集中し、結びついている状態を指す。
湖国すまい・まちづくり推進協議会	住まいづくりやまちづくりに関わる者が連携して、県民の住まいづくりに対する意識の向上や支援を行うとともに、住宅関係産業の活性化などに関する取組をすることにより、郷土にふさわしい豊かな住生活の実現に貢献することを目的に、住まいづくりやまちづくりに関わる公益団体、公的機関、事業者などを構成員として、平成 15 年(2003 年)3 月に設立された任意団体。
【サ行】	
再生可能エネルギー	化石燃料以外のエネルギー源のうち永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。代表的な再生可能エネルギー源としては、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等がある。
再生可能エネルギー発電促進賦課金	「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」によって電力の買い取りに要した費用を、電気を使用する者がその使用量に応じて負担するもの。
滋賀らしい環境こだわり住宅	県産材や地場自然産素材などを活用し、物理的な長期耐用性や省エネルギー化、バリアフリー化などが図られた人と環境にやさしい木造住宅。

水素エネルギー	利用段階ではCO ₂ を排出しない低炭素型のエネルギー媒体。今後、民生・産業部門の分散型電源システムや輸送用途の有力なエネルギー源の1つとして一層の活用が期待されている。
スマートグリッド	電力需給両面での変化に対応し、電力利用の効率化を実現するために、情報通信技術を活用して効率的に需給バランスをとり、生活の快適さと電力の安定供給を実現する電力送配電網のこと。
スマートコミュニティ	スマートグリッドによる電気の有効利用に加え、熱や未利用エネルギーも含めたエネルギー全体の需要・供給体制の構築、地域の交通システムや市民のライフスタイルの変革までも幅広く含む、エリア単位での次世代のエネルギー・社会システムの考え方。
【夕行】	
地域資源・エネルギーコーディネーター育成プログラム(RREC)	滋賀県立大学が、環境省「平成 27 年度持続的な地域創生を推進する人材育成拠点形成モデル事業」の採択を受けて、地域主体の「低炭素・資源循環・自然共生」社会の創出を「加速化」させるための、「幅広い知識」と「ノウハウ」と「実践力」を有し、「即戦力」となるリーダー、コーディネーターとしての人材育成拠点の形成を目指して開講した人材育成支援プログラム(平成 27～28 年度に実施)。
地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化の現状や地球温暖化対策の重要性に関する啓発・広報活動、地球温暖化防止活動推進員や民間の団体の支援活動等を行う組織。地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、都道府県または指定都市等が指定する。
ダイヤモンドリスpons(デマンドレスポンス)	時間帯別に電気料金設定を行う、ピーク時に使用を控えた消費者に対し対価を支払うなどの方法で、使用抑制を促し、ピーク時の電力消費を抑え、電力の安定供給を図る仕組みのこと。需要者側が電力システムに参画できる仕組みとなっている。
TJ(テラジュール)	J(ジュール)は、発熱量を表す国際的な単位で、カロリーに代わるもの。T(テラ)は、キロ(10の3乗)などと同じ補助単位で10の12乗(兆)。
天然ガスコージェネレーション	天然ガスを燃料として、家庭や事業所等の電力や熱が必要な場所で発電し、その際に発生する熱を温水や蒸気の形で利用するシステムのこと。ガスエンジンやガスタービンの駆動によって発電するものと、燃料電池によるものとに分けられる。
トリジェネレーション	一般的には、コージェネレーション(=電熱併用)に対して、熱源から生産される電気、熱に加え、発生するCO ₂ も活用するエネルギー供給システムのこと。電気、熱、CO ₂ の3要素(トリ)に由来する造語。

【ナ行】	
燃料電池	水素と酸素の化学的な結合反応によって直接、電力を発生させる装置。家庭用の装置としては、都市ガスやLPガスから生成する水素と空気中の酸素を反応させて発電し、この反応により生じる排熱を給湯にも利用することによりエネルギー利用効率を高くした、省エネ・省CO ₂ 型の機器が商品化されている。
燃料電池自動車(FCV)	燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車。ガソリン内燃機関自動車が、ガソリンスタンドで燃料を補給するように、燃料電池自動車は水素ステーションで燃料となる水素を補給する。
【ハ行】	
プラグインハイブリッド車(PHV)	外部電源から充電できるタイプのハイブリッド自動車で、走行時にCO ₂ や排気ガスを出さない電気自動車の長所と、ガソリンエンジンとモーターの併用で遠距離走行ができるハイブリッド自動車の長所を併せ持つ自動車。
HEMS(Home-Energy-Management-System)	家庭向けのエネルギー管理の仕組み、あるいはそのサービス。家電や電気自動車などを通信でつないでエネルギー消費を可視化し、適切なアドバイスを提供してエネルギー消費の最適化を図る。
【マ行】	
メガソーラー	出力1メガワット(1MW = 1,000 kW)以上の規模を有する大規模な太陽光発電施設。
【ラ行】	
レジリエンス	一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される言葉で、近年は特に「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」という心理学的な意味で使われるケースが増えている。さらにその概念は、個人から企業や行政などの組織・システムにいたるまで、社会のあらゆるレベルにおいて備えておくべきリスク対応能力・危機管理能力としても注目を集めている。
【ワ行】	
ワット(W)	電力の単位。電気エネルギーを使って仕事をする能力の大きさ。
ワット時(Wh)	電力量の単位。一定の電力がある時間働いて使った電気の量。1Wが1時間働いた電力量を1Wh(ワット時)という。 ※1Whの千倍が1kWh(キロワット時)。